

① 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—147115

⑤ Int. Cl.³
F 16 C 17/10

識別記号

庁内整理番号
Z 7127—3J

④ 公開 昭和59年(1984)8月23日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 7 頁)

⑭ モータ用フランジ付き半円筒形ベアリング

ス・ドナ・エンヌ146

⑮ 特 願 昭59—17216

⑰ 出 願 人 クレバイト・ソシエテ・ア・レ

⑱ 出 願 昭59(1984)2月3日

スポンサビリテ・リミテ

優先権主張 ⑲ 1983年2月3日 ⑳ イタリア
(IT)㉑ 84909-A/83

イタリア国ガルドロ・デイ・ト
レント・ヴィア・ピ・トデスカ
・エンヌ12

㉒ 発 明 者 ロシオ・ガストン

㉓ 代 理 人 弁理士 松本英俊

イタリア国トレント・ロク・エ

明 細 書

1. 発明の名称 モータ用フランジ付き半円筒形ベアリング

2. 特許請求の範囲

(1) 支持体に該支持体とのわずかな干渉により固着されるようになっている略半円筒形のライナと、該ライナに結合される少なくとも1つの軸ラスト・フランジとを備え、前記ライナの前記フランジに隣接した湾曲面に前記ライナの軸線方向の対称面を中心に対称をなして少なくとも2つの溝が形成されており、しかも該溝は前記フランジの内周面に対応して形成された固定用突起を収容するようになっているモータ用フランジ付き半円筒形ベアリングにおいて、

前記各溝はライナの直線母線に対して一部が傾斜している側壁を有し、

前記各突起は略角柱状に形成され該角柱状突起の側面の1つと前記溝の側壁との干渉を形成することにより、ライナとフランジとの結合前は前記溝間に画定されるライナの中心角 α が前記突起間

に画定されるフランジの中心角 α' よりも小さくなるようにするとともに、ベアリングを所定の位置に取付ける前においてライナとフランジとが結合状態にあるときは前記角度 α が前記角度 α' よりも小さい状態を保持したまま大きくなるようにし、しかもベアリングを所定位置に取付けた後は前記角度 α が前記ライナに支持体から付与される向心方向の圧縮力により前記角度 α' とほぼ等しくなるようにすることにより、半円筒形ベアリングの前記支持体への取付前は前記ライナとフランジとの結合を安定にしかつ前記ベアリングの支持体への取付後はフランジとライナとが相対的に周方向及び軸線方向に部分的に動けるようになっていることを特徴とするモータ用フランジ付き半円筒形ベアリング。

(2) 前記角柱状突起の前記側面はライナの直線母線と平行をなしかつ該側面とフランジの内周面とにより形成される隅部を通る軸線方向の面に対し ϕ の角度だけ傾斜していることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のモータ用フランジ付